

平成29年度 第4回（通算第8回） 日立市立学校適正配置検討委員会 会議録

日 時	平成30年1月29日（月） 午後2時から4時まで
場 所	日立市役所 305号会議室
出席人数	(1) 委員 18人（7人欠席） (2) 事務局 教育部長、学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員 計23人
議 事	(1) 地域懇談会及びパブリックコメントの結果について (2) 基本方針修正の方向性について
そ の 他	次回開催予定 平成30年2月15日（木）
協議内容	<p>(委員長) 第8回目を迎え、いよいよ方針案を確定する段階となりました。 余談ですが、本日の茨城新聞で県人口の減少が1面に取り上げられていました。人口減少が多かった市町村の一番上に「日立市」とあり目を引きました。△2,183人というのは、単純計算で、5年で10,000人が減るペース。日常生活を送っていると感しないが、改めて数字で見ると（人口減少を）実感します。 日立市ばかりでなく日本全国の課題でもあるが、子どもたちが減っていく中で、どのようにして教育を充実させていくかという課題への対応を、本検討委員会は担っています。引き続き、皆様のご協力をもって進めていきたいと思えます。</p> <p>前回の協議の後、皆さんからいただいた意見をもって事務局で修正した素案で、地域懇談会、パブリックコメントを行ったので、その結果報告を事務局からお願いします。</p> <p>(事務局) 資料1、2について説明。</p> <p>(委員長) 資料1、2について、ご質問等があればお受けします。</p> <p>いろいろな意見があることが分かりましたが、これらの意見を踏まえて、事務局で提言案を修正しています。それについて、資料3、4でまとめられているので、合せて説明を受けた上で、方針の修正についてご意見を伺うことにします。</p> <p>(事務局) 資料3について説明。</p>

まず、「1 日立市の基準」についてです。

ア、イは基準に否定的な意見です。一方、ウは基準そのものに肯定的な意見です。そのほか、エ、オは、基準のベースにある基本的考え方を肯定、賛成する意見です。

このような意見を踏まえた修正の方向性については、①にありますように、素案のとおり（修正なし）で良いのではないかと考えました。賛否両方の意見がありましたが、小学校2学級、中学校3学級とした適正な学校規模について、基準を1学級に下げたり、逆に4学級以上に上げたりするには至らないと考えました。

「取組に当たっての留意事項」に関して、様々な意見が寄せられました。具体的には、地域とのつながりを大切にしてほしいことや、児童生徒への負担を減らしてほしいなどです。これらを踏まえて、②にありますように、留意事項の観点から、必要に応じて柔軟な対応が可能となるように、「日立市の基準」としていた表現を、「日立市の目指すべき学校規模」と改めたいかがと考えました。

学校を取り巻く環境は全く同じではなく、地域によって様々な特徴があります。一つの基準で一律に進めることも大切ですが、目指すべき目安として捉えたほうがより柔軟性のある、より良い環境づくりができるのではないかと考えたところです。

次に「2 取組に当たっての留意事項」についてです。

「(1)地域への配慮」については、アの意見に対して、①のように、学校適正配置の検討は、児童生徒の学習環境の改善を中心に据える旨を明記してはどうか。

イのような心配の声が寄せられたことを受けて、②のように、「学校が持つ多様な機能」に加え、「地域とのつながり」という新たな視点も持ちながら進めることを追記してはどうかと考えたところです。

次に「(2)新たに加える項目」についてです。ア、イの意見を踏まえ、新たに児童生徒への配慮という項目を加えた上で、修正の方向性として、児童生徒の新しい学校生活への適応を継続的に支援する旨を明記してはどうかと考えました。

次に「3 適正配置計画の策定」についてです。ア、イの意見を踏まえ、保護者をはじめとする関係者が見通しを持てるように、学校適正配置の全体像を示した上で、今後10年間に取り組む個別具体的な内容を明らかにする旨を明記してはどうかと考えました。

資料3の説明は以上です。

続いて、資料4について説明します。

これが、検討委員会から教育委員会に提言していただく最終形の（案）になります。

これまでお示ししていた素案に、修正を加え、合わせて新たに資料編

も追加してまとめたものです。

冒頭に検討委員会からの提言内容を文章でまとめました。
左ページの真ん中をご覧ください。読み上げます。

「本提言は、次の時代を担う本市の子どもたちが、豊かな人間性を育み健やかに成長していくのにふさわしい学習環境を整えるために、なすべきことをまとめたものです。

学校の規模と配置を変えることだけで学校がより良くなるものではありませんが、避けては通れないことでもあると考えます。

私たち大人には、子どもたちの学習環境を守り、より良くする責任があることから、それぞれの立場で知恵を出し合い、共に新たな学校をつくる、その一助となるよう提言するものです。」

その下の大きな段落には、子どもたちに関わる、「学校」「教育委員会」そして「保護者や地域住民の皆さん」に対して果たしてほしい役割を要望、或いは、期待したい旨をまとめました。

最後の部分には、学級規模の取り扱いについての考えをまとめました。制度上の制約などから、この提言には盛り込まなかった少人数学級について、子どもたちの環境に大きな影響を及ぼすことなので、実現に向け、検討の継続を期待したいとまとめさせていただきました。

次に、目次についてです。修正部分を新旧対象表にまとめました。

基本方針部分は、「1 基本理念」を新設、「2 適正な学校規模」は、以前の大きい1番から3番を一つにまとめたものです。

また、2の(3)のタイトルを「日立市の目指すべき学校規模」に修正しています。

次の「※資料編へ」は、以前の大きな4番を資料編に移したということです。

3のタイトルは文言整理で、より具体的な表現に改めました。

3の(4)は新設した項目、(6)のタイトル修正は、本文の記載内容を見直しましたので、それに伴い修正したものです。そして一番下の資料編は新たに追加したものです。

本文の修正は、見え消しで表現しています。順番に説明していきます。

1ページは、文言整理です。この文章は、財政的視点から取組の必要性を述べたものですので、効率的かつ効果的な維持管理が求められると文言を加えることで、趣旨がより伝わると考え修正したものです。

3ページです。

「1 基本理念」を新設しました。

地域懇談会を実施した経験から、学校適正配置の基本的な考え方や、取り組む上での姿勢を市民の皆さんに一言で、しかもわかりやすい表現で伝えることが重要ではないかと考え、新たに加えさせていただきました。

た。これまでの検討委員会における議論を踏まえて、子どもを第一に、市民の皆さんと一緒に考えていくことを表現しました。

2 (1)の本文中、3か所を修正しています。基本的な考え方を示すにふさわしい表現として、文言も含め整理しました。

4 ページです。

ア(ア)については、文章表現の整理です。中学校に関する(イ)と(ウ)を一つにまとめるなど、趣旨を変えない範囲で文章を整えました。

イ(ウ)については、「主要5教科」という表現は通常用いないとの助言を受け、授業時間を「時数」に修正することも含め、正しい表現に改めたものです。

5 ページです。

(2)ア、イは具体的な数字に改め、ウは文章の整理です。

(3)、6 ページの3のタイトル及び(1)については、先に説明した通りです。

6 ページです。

(4)、(5)については、既に説明した通り、主に市民意見を反映して修正したものです。

なお、(5)の一行目、「各地域のコミュニティの核として」、という表現を削除しました。その理由は、小中学校が、あたかも、地域活動の拠点施設である、或いは、学校を中心に地域活動が行われているような誤解を招く恐れがあるからです。

(6)の中里地区に関する項目については、主に教育的な視点から考え方を再整理した結果、表現を改めたものです。

以前の内容は、6 ページの記載のように、他の小中学校と離れて立地していることを理由に、隣接校との統合等が難しいことから、「現状を維持し個別に検討する。」としていました。修正後の文章では、立地上の制約よりも、現在、中里小中学校が提供している教育環境の有効性などを重視した内容となっています。

中里小中学校が提供する教育環境は、地域の特性を生かした魅力ある学校づくりと合わせて、学校小規模化の課題改善を目指してスタートしたものでしたが、実績を重ね、学区外からも就学を希望する子どもたちも増えてきており、両校が提供している教育環境の有効性や必要性が評価を受けています。

以上のことから、中里小中学校について、このような教育環境を今後も引き続き提供する学校として位置付けたいという考えの下、表現を改めさせていただきます。

7 ページです。

(7)のアについては、地域とともにある学校づくりを進める仕組みの一つとしてコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)というものがあります。日立市においては、正式に導入していませんが、今年度から

市内の2校で試行しています。このような日立市内の取組が進んでいることを踏まえて、一つの事例として、盛り込んではどうかと考えました。

「4 学校適正配置基本計画の策定」について、文言の整理で、タイトルの一部を修正し、本文については、今後の見通しを持てるようにしてほしいとの市民意見を反映して、全体像を示した上で、今後10年間に取り組む個別具体的な内容を明らかにすることを明記しました。

8ページからは、新たに掲載した資料編です。

9、10ページには、学校別の将来推計、34ページには地域懇談会で質問が多かった学級編制に関する情報、35ページには、以前は本編に入っていた情報を36ページの「課題への対応」も新たに加え掲載しました。

説明は以上です。

(委員長)

いくつかの修正がありました。資料4について、検討していくことにします。

順を追って見ていきます。目次について、いかがですか。

(異議なし)

1、2ページについて、いかがですか。

(異議なし)

3ページです。基本理念が加わりました。いかがですか。「2(1) 基本的な考え方」について、表現などはよろしいでしょうか。

(異議なし)

4ページです。シンプルな表現になっていますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

5ページです。(2)のアンケートの結果など、はっきりした数字があるので記載したということです。ウについては、小規模校に対する表現を弱めてあります。よろしいですか。

(異議なし)

(3)は、特にご確認いただきたいところの一つです。これまで「適正な学校規模(日立市の基準)」としていたところを「日立市の目指すべき学校規模」としています。

小学校は「各学年2学級以上」、中学校は「各学年3学級以上」と書いてあるのが(絶対的な)基準のように見えますが、主旨としては、このような目安の中で適正な規模を目指していこうということです。満たなければ統廃合の対象とするというような、杓子定規で機械的な判断にな

らないようにという配慮です。基準ということば遣いが厳しい印象を与えるというところを反映したものです。

(A 委員)

※印の「基準」という用語の扱いはどうするのか。

(委員長)

国の標準を前提としての県の基準という法的な用語なので、市の表現とは意味合いが異なると思います。問題ないのではないかと思います。

(B 委員)

その部分の「※」は、他の部分と表記を統一して、とっともよいのではないか。

(委員長)

事務局は、表記の工夫をしてください。

他にはいかがですか。修正された表現でよろしいですか。

(異議なし)

6 ページの(4)について確認します。

ここに書かれている児童生徒への配慮は、当然やっていくことですが、(保護者の不安もあるので)きちんと明文化したということです。よろしいでしょうか。

(異議なし)

(5)については、いかがですか。「コミュニティの核」という表現を削っています。

(B 委員)

先ほどの説明でよく分かった。地域懇談会に参加した時に、「学校はコミュニティの核だから廃校しないでほしい」と意見を出されている方がいたので、表現を変えた方がよいと思う。

コミュニティが子どもたちのために関わってくれていることは大きなことだ。登下校など、保護者の手が足りない部分を地域がかなりカバーしてくれているというところが、適正配置を行うことで、関わりが希薄にならないようにしたい。現状は、子どもと地域が密になっている。地域が学校と一緒にあって、子どもたちの防犯に取り組んでいる。その活動をつぶさないような方向で取り組んでほしい。基本方針やことば遣いで断ち切ってしまうことのないように、現実に逆行しないようにしてほしい。

(委員長)

「防災」が初めに出てくると、そのような感じに見えなくもないですね。

(C委員)

市には10年間の総合計画があり、学校の適正配置計画は同時期の計画。市の総合計画の中で、学校適正配置の計画はどのような位置にあるのか、上位計画との位置付けをはっきり示した方がよいのではないかと。

(委員長)

(市民からも)都市計画との関係についての質問もあったと思います。

(事務局)

市のまちづくりの計画の下に学校の適正配置もある。そのような書き込みは必要と考えているが、個別計画との整合がとりきれないおそれもあり、書き込みはしなかった。何らかの書き込みは必要と考えているので検討させてほしい。

(C委員)

細かいところまでリンクさせる必要はないが、市の計画本体のどこにつながるのかが分かるようにしてほしい。はじめの提言の中でも触れてもらえればよいと思う。

(委員長)

先ほどのご意見のように、地域が学校を支えていることについても書き込みをお願いします。

(教育部長)

地域の支援を受けていることは、そのとおりなので、関係を断ち切るような表現はしない。新たな関係を築けるような表現をしたい。

(D委員)

学校が地域の核と言われると、違うのではないかと。活動の拠点は交流センターであるし、防災の他にもいろいろなところで関わっている。多様性のある表現を検討してほしい。

(委員長)

事務局で検討して、次回に提示してください。

次に、(6)中里についてですが、中里地区には中里小中学校しかないの
で、はっきりと「中里小中学校について」という表現になっています。
ここも大きな変更です。ご意見を伺います。

(E委員)

学校名は、分けて表記してほしい。「中里小学校、中里中学校」または「中里小・中学校」。

(委員長)

事務局は、確認して適切な表記にしてください。内容については、いかがでしょうか。

(異議なし)

7ページ(7)です。

「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入」ということが入ってきています。

(F委員)

他県で取り組まれていることは知っている。市内で試行しているということなので、具体的にどのような取り組みをして、どのような成果が出ているのか教えてほしい。

(事務局)

これまでの学校評議会制度から一步踏み込んで、積極的に学校運営に関わっていただくような取り組みと承知している。今年度から会瀬小学校、駒王中学校で取り組んでおり、その結果を検証しながら市内に広めていこうという段階である。

(教育部長)

これまでは、学校評議会制度というものがあって、学校運営に関する意見をいただいていたが、学校運営協議会制度に変わることによって、一步踏み込んで、地域が運営の主体の一部となるような制度になった。

1つの事例としては、学校行事などに地域からの協力をもらう場合に、地域の側は、お願いされるというよりも自分たちが積極的に動くという意識付けができる。地域の中に調整役もいて、しっかり支援の調整をしてくれる。学校運営上、協力し合うという形作りができていているということを知っている。

(G委員)

適正配置後の学校全てにコミュニティ・スクールを導入することになるのか。36ページでも、「コミュニティ・スクールを導入する」という対策が出ている。統合後の学校に導入するというような誤解を招かないか。

(委員長)

事務局ではいかがですか。導入することを確約するような表現になっているのではないということですか。

(H委員)

「コミュニティ・スクール」ということばが突然出てきて、よく分からない。学校評議員制度の役割などPTA役員でも詳しく分からない。一般的には、分からないのではないか。

(I 委員)

今は試行で、今後、日立市として導入を検討して行く段階にあるということを考えると、慎重に扱った方がよいのではないかと。

国が示しているもので、後々やっていくのだろうし、成果も聞いている。(児童生徒の教育について) 学校が果たす役割が大きい中で、地域が考えて地域と一緒にやったり、地域が主導でやっていける部分もあり、学校としてはありがたい。いろいろな視点から議論していく必要はあると思うが、学校としては助かっていると聞いている。

(委員長)

いろいろな説明の仕方はあると思うが、分かりやすい例を挙げてみます。

子どもを通わせている保護者の考えで、学校と協力してやっていくということがPTA活動の中心です。先生と親御さんの関係のほかに、例えば、地域や警察、消防などの協力を得たいとき、ネットワークが弱い、スムーズではないところがあると、学校運営がうまくいかない。地域組織や関係団体の代表が学校運営協議会の委員であれば、一堂に集まっているので話が早いというような機能が期待されています。そのほかにも、いろいろな働きが期待されている制度です。

(H委員)

目指すところはよく分かる。一人の子どもをたくさんの大人が支えてより良くしていこうということだと理解した。

(事務局)

36ページについて、日立市の対応という印象をお持ちのようだが、これは、文科省の手引からの抜粋で、他市町村の事例を掲載している。本文の表現は、誤解のないようにしたい。

(委員長)

ここまで踏み込んで書く必要があるかどうかも含めて、事務局で検討してください。

「4 学校適正配置基本計画の策定」については、いかがですか。
(異議なし)

最後に全体を通して、何かありますか。

無いようですので、ただいま出されたご意見をもって事務局で修正し、最終的な提言をまとめさせていただきます。

次回は基本方針の確定に進めさせていただきます。

では、事務局から、次回についての説明をお願いします。

(事務局)

本日の協議を踏まえて、事務局で修正をし、次回の委員会(2月15

日) でご提示する。

全体を通して、ご質問等ありますか。

(H委員)

P T Aの母親委員会でお母さんたちがどのようなことに不安を持っているかアンケートを行った。その中に、適正配置に関することがあったので紹介する。

- ・統廃合が小学校において急速に進みそうで大変不安です。今後の見通しを知りたい。
- ・児童の減少が進んでも、快適な学校生活が送れるようにしてほしい。
- ・平沢中が廃校になるのではないかと不安です。理由は、プレハブ校舎での生活が続いていること、生徒数も減っていること、部活動のために区域外通学が増えていることです。
- ・部活動に支障が出ています。統廃合を早急に進めてほしい。

現場のお母さんたちの声を紹介させていただいた。

(I委員)

今のような話は、私の学校にも伝わっている。6年生が中学に進むに当たり、迷ったり不安がっている。特に部活動について。(ある部活動について) 今年は無っても、来年は無いかもかもしれない。

中学校としても、入学者説明会の前に、保護者に現状を伝えている。現場でも、同じようなことが起こっている。

(委員長)

今の話は、具体的な計画の議論を進める中で拾い上げていけるように、この方針をしっかりとまとめていきたいと考えます。

(事務局)

教育委員会としても、いろいろなところで皆様のご意見を伺う機会がある。真摯に受け止めてまいりたい。お気づきの点、お聞き及びの点があれば、事務局にお伝えいただきたい。

以 上